

高等学校 令和6年度(1学年用) 教科 教養 科目 ベーシック I 発展

教科: 教養 科目: ベーシック I 発展 単位数: 1 単位

対象学年組: 第 1 学年 1 組 ~ 7 組

教科担当者: (1組:伊藤・舟山・寺園・安田) (2組:橋・酒井・舟山・高橋) (3組:磯野・橋・丸山・酒入) (4組:上島・佐藤・安井・酒井)
(5組:安田・菅原・西田・安井) (6組:丸山・八木・磯野) (7組:梅林・寺井・酒入・菅原)

使用教科書: (自校)

使用教材: (自校教材(国語、数学、英語、各プリント)、PCタブレット端末等)

科目の目標 義務教育課程までの基礎基本の学習の定着を図り、社会生活における基礎的なマナーの向上を図る

- 【知識及び技能】 義務教育課程までの基礎基本の学習の定着を図る。
- 【思考力、判断力、表現力等】 コミュニケーション能力や社会生活における基礎的なマナーの向上を図り、自ら意思表現を行う機会を持つ。
- 【学びに向かう力、人間性等】 自ら積極的に課題に取り組む姿勢をつくり、集中力の伸長を図る。
学び、理解する喜びを得る。

評価規準:

| 【知識・技能】 | 【思考・判断・表現】 | 【主体的に学習に取り組む態度】 |
|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ベーシック I 基礎で学習した自分のペースで繰り返し、取り組むことができる。 ・AI教材やPC活用するためのルールを学ぶ。 ・到達度テストで自分の理解度や進捗に気づくことができる。 ・挨拶をはじめとした、社会人として必要なマナーを学び自覚することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・活動や学習を通して、自ら判断し表現する力を養う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習の進捗に気づき自覚し、自ら質問することができる。 ・継続する力を養うために、各自目標を設定することができる。 ・授業への取組を自己評価することができる。 |

| 学期 | 月 | 具体的な指導目標 | アキルスタンダード (指導項目・内容) | 知 | 思 | 態 | 評価の方法 | 実績(実施日) | | | | | | 配 当 時 間 | 評 価 |
|-------------|-----------------------|--|--|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|------------------|--------|
| | | | | | | | | 組 | 組 | 組 | 組 | 組 | 組 | | |
| 2 学 期 | 10 | <ul style="list-style-type: none"> ○授業ガイダンス ○授業オリエンテーション 挨拶・授業規律について ○プリント学習 国・数・英 振り返シート | <ul style="list-style-type: none"> ・授業規律を知り、授業の流れを知る。 ・学習の初歩の初歩(基礎・基本)までしかのぼった自作のプリント教材を繰り返す事で、基礎学力の定着を図る。 ・学習の進捗に気づき自覚し、自ら質問する 力を身に付ける。 ・挨拶を始め、社会人として必要なマナーを学び、実践する。 | ○ | ○ | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・授業への取組 ・プリント学習 ・振り返りシート ・到達度テスト | | | | | | | 6 | |
| | 11 ・ 12 | <ul style="list-style-type: none"> ○プリント学習 国・数・英 ○AI教材/PC活用ルール等 ○プリント学習3教科とAI教材/PCの ローテーション学習 | <ul style="list-style-type: none"> ・プリント学習により自己の課題や楽手の進捗を知る。 ・デジタル教材の活用ルールについて。 ・各自目標を設定し継続する力を養う。 ・プリント学習の継続 ・AI教材はカテゴリーを設定し、自分のペースで実施。相談スキルを伸ばす。 ・PCを利用した授業等への対応方法を学ぶ。 ・タイピング等の活用スキルの向上を図る。 | ○ | ○ | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・授業への取組 ・プリント学習 ・振り返りシート | | | | | | | 8 | |
| | | | <ul style="list-style-type: none"> ○同上 | <ul style="list-style-type: none"> ・PCを利用した授業等への対応方法を学ぶ。 ・タイピング等の活用スキルの向上を図る。 | ○ | ○ | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・同上 | | | | | | | 4 |
| 3 学 期 | 1 ・ 2 ・ 3 | <ul style="list-style-type: none"> ○同上 ○ベーシック I 発展でのまとめ ○到達度テスト ○定着度の分析 | <ul style="list-style-type: none"> ・プリント学習、及びAI教材、PC活用の学びを深める。 ・学力の定着度をグラフなどにより、自己理解を踏める。 | ○ | ○ | ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・授業への取組 ・プリント学習 ・振り返りシート ・到達度テスト | | | | | | | 12 | |

高等学校 令和6年度（2学年用）

教科

教養

科目

ベーシックプラス

教科： 教養 科目： ベーシックプラス 単位数： 2 単位
 対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 7 組
 教科担当者： 松隈 龍門
 使用教科書： ()
 使用教材： (Classi 「webドリル」)
 科目の目標

- 【知識及び技能】 ベーシック1で学習した内容に加えて、社会生活で必要となる基礎・基本的な知識、技能を身につける。
 【思考力、判断力、表現力等】 自分に必要な勉強分野を理解し、繰り返し取り組むことで自己分析を常に行う。
 【学びに向かう力、人間性等】 自らのつまずきを自らの力で克服する態度を育み、わかることの喜びや努力することの価値を見いだす。

評価規準：

| 【知識・技能】 | 【思考・判断・表現】 | 【主体的に学習に取り組む態度】 |
|--|---|---|
| ①ベーシック1で学習した内容の補足事項を含めた学び直しの基本的な学習内容を理解している。 ②学び直しのねらいを理解し、粘り強く学習することで学習項目を完全に理解することができる。 | ①国語・数学・英語について、学習内容の理解定着をねらいとした復習を重ねることができる。 ②学習内容に積極的に取り組み、自らの学力を向上させる努力を継続することができる。 ・理解度確認テスト ・自ら問いを立てる | ①国語・数学・英語の学習で得た知識等を活用し、事象の考察や問題の解決に活用しようとしている。 ②継続学習において、粘り強く考え、その過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとしている。 |

評価方法と割合：

| 【知識・技能】 全体の3分の1 | 【思考・判断・表現】 全体の3分の1 | 【主体的に学習に取り組む態度】 全体の3分の1 |
|------------------------|--------------------|-------------------------|
| ①最終復習時点数 ②プリントの取り組み | ①解答日時 ②復習回数 | ①学習に取り組む状況・ふりかえりの状況 |

| 学期 | 月 | 具体的な指導目標 | アキルスタンダード (指導項目・内容) | 知 | 思 | 態 | 評価の方法 | 実績(実施日) | | | | | | 記 事 欄 | 評 価 |
|----|----|--|--|---|---|---|-------------------------|---------|---|---|---|---|---|-------------|--------|
| | | | | | | | | 組 | 組 | 組 | 組 | 組 | 組 | | |
| 1 | 4 | 国 現代語訳(古典) 内容説明 数 正負の数 正負の数の計算 英 文型の基本 (S+V)の文 | ①月初めに月ごとの学習計画を立てる (国語・数学・英語) ②Classi「webドリル」への取り組み ・動画の内容をワークシートにまとめる ・理解度確認テスト ・自ら問いを立てる ③Classi「マナトレ」のプリント教材に取り組む ④1年次に使用したベーシック1教材の続きに取り組む | ○ | ○ | ○ | 解答日時 復習回数 最終復習時点数 | | | | | | | | |
| | 5 | 国 理由・心情説明 和歌の理解 数 乗法と減法 英 加法と減法 There構文 S+V+O | ①1年次に使用したベーシック1教材の続きに取り組む ②③④を基に、学んだ内容を他の生徒に説明する(学習内容のアウトプット) ⑤受講者同士で教え合うことで理解を深める ⑥授業の最後に振り返りを行い、次時以降の学習の調整をする。 | ○ | ○ | ○ | 解答日時 復習回数 最終復習時点数 | | | | | | | | |
| | 6 | 国 古文、語句の学習 「動作・状態」を読み取る 数 乗法と除法 英 補語と目的語の違い 動詞の活用 | | ○ | ○ | ○ | 解答日時 復習回数 最終復習時点数 | | | | | | | | |
| | 7 | 国 主題・目的語の確認 主張部分を探す 数 文字を使った式 英 文字式の計算 時制(現在・過去・未来) (S+V+O)の文 | | ○ | ○ | ○ | 解答日時 復習回数 最終復習時点数 | | | | | | | | |
| 2 | 9 | 国 和歌の心情読解 和歌の解釈 数 式の値 1次方程式の解 英 第2文型をとる動詞 いろいろな文型 | ①月初めに月ごとの学習計画を立てる (国語・数学・英語) ②Classi「webドリル」への取り組み ・動画の内容をワークシートにまとめる ・理解度確認テスト ・自ら問いを立てる ③Classi「マナトレ」のプリント教材に取り組む ④1年次に使用したベーシック1教材の続きに取り組む | ○ | ○ | ○ | 解答日時 復習回数 最終復習時点数 | | | | | | | | |
| | 10 | 国 例置 四段活用動詞 数 方程式とその解き方 比例反比例 英 文の種類 補語と目的語の違い | ①1年次に使用したベーシック1教材の続きに取り組む ②③④を基に、学んだ内容を他の生徒に説明する(学習内容のアウトプット) ⑤受講者同士で教え合うことで理解を深める ⑥授業の最後に振り返りを行い、次時以降の学習の調整をする。 | ○ | ○ | ○ | 解答日時 復習回数 最終復習時点数 | | | | | | | | |
| | 11 | 国 実務活用動詞 識別・敬語 数 円数 英 垂直二等分線の性質 まぎらわしい目・他動詞 第4文型→第3文型 | | ○ | ○ | ○ | 解答日時 復習回数 最終復習時点数 | | | | | | | | |
| | 12 | 国 動詞活用 助動詞意味と接続 数 図形の移動 英 平面図形 toとforの使い分け 第4文型と第5文型 | | ○ | ○ | ○ | 解答日時 復習回数 最終復習時点数 | | | | | | | | |
| 3 | 1 | 国 形容動詞の基本 同音語識別 数 円柱の体積 球の体積 英 S+V+O+C 因果関係を表す第5文型 | ①月初めに月ごとの学習計画を立てる (国語・数学・英語) ②Classi「webドリル」への取り組み ・動画の内容をワークシートにまとめる ・理解度確認テスト ・自ら問いを立てる ③Classi「マナトレ」のプリント教材に取り組む ④1年次に使用したベーシック1教材の続きに取り組む | ○ | ○ | ○ | 解答日時 復習回数 最終復習時点数 | | | | | | | | |
| | 2 | 国 使役・尊敬の助動詞 受身可能受尊敬の助動詞 平均値・中央値・最頻値 ヒストグラムの読み取り 英 可算名詞と不可算名詞 数量形容詞の使い分け | ①1年次に使用したベーシック1教材の続きに取り組む ②③④を基に、学んだ内容を他の生徒に説明する(学習内容のアウトプット) ⑤受講者同士で教え合うことで理解を深める ⑥授業の最後に振り返りを行い、次時以降の学習の調整をする。 | ○ | ○ | ○ | 解答日時 復習回数 最終復習時点数 | | | | | | | | |
| | 3 | 国 打消量の助動詞 過去の助動詞 数 資料の散らばりと代表値 データの活用 英 名詞の複数形 指示・人称・不定代名詞 | | ○ | ○ | ○ | 解答日時 復習回数 最終復習時点数 | | | | | | | | |

高等学校 令和6年度（2学年用）

教科 日本の伝統・文化 科目 表現活動

教科： 日本の伝統・文化 科目： 表現活動 単位数： 2 単位
 対象学年組： 第 2 学年 1組～ 7組
 教科担当者： 澁谷
 使用教科書： ()
 使用教材： ()
 科目の目標

- 【知識及び技能】和太鼓に親しみ、基礎的な演奏技術を習得する。
- 【思考力、判断力、表現力等】より良い演奏方法を追求し、太鼓を通して自己を表現する。
- 【学びに向かう力、人間性等】集団で演奏することにより、他者と共感し自己肯定感を培う。コミュニケーションの力や生きる意欲を高める。

評価規準：

| 【知識・技能】 | 【思考・判断・表現】 | 【主体的に学習に取り組む態度】 |
|------------------|--|--------------------------|
| 和太鼓演奏の技術を身に付けたか。 | 自己評価、相互評価から自らの課題を発見し、その課題について考察しながら演奏できたか。 | 仲間と協調して、前向きに演奏に取り組んでいるか。 |

評価方法と割合：

| 【知識・技能】 全体の3分の1 | 【思考・判断・表現】 全体の3分の1 | 【主体的に学習に取り組む態度】 全体の3分の1 |
|-----------------|--------------------|-------------------------|
| 演奏 テスト | 演奏 テスト | 演奏に取り組む状況 振り返りの状況 |

| 学期 | 月 | 具体的な指導目標 | アキルスタンダード (指導項目・内容) | 知 | 思 | 態 | 評価の方法 | 実績（実施日） | | | | | | 配 当 時 間 | 評 価 |
|----|----|--------------------------------------|-----------------------------------|---|---|---|--|---------|---|---|---|---|---|------------------|--------|
| | | | | | | | | 観 | 観 | 観 | 観 | 観 | 観 | | |
| 1 | 4 | 和太鼓に関する基礎知識を理解できたか。 | オリエンテーション 和太鼓の歴史・特徴 和太鼓基礎練習 | | | | 下記項目について総合的に評価する。 ・和太鼓演奏の技術を身に付けたか。(知識・技能) ・自己評価、相互評価から自らの課題を発見し、その課題について考察しながら演奏できたか。(思考・判断・表現) ・仲間と協調して、前向きに演奏に取り組んでいるか。(主体的に学習に取り組む態度) | | | | | | | | 6 |
| | 5 | 基本の演奏技術を修得できたか。 | 和太鼓基礎練習 | | | | | | | | | | | | 8 |
| | 6 | 演奏の方法を理解できたか。 意欲的に練習に取り組むことができたか。 | 演奏練習 | | | | | | | | | | | | 8 |
| | 7 | 演奏の技術の上達は見られたか。 | 演奏練習 | | | | | | | | | | | | 6 |
| 2 | 9 | 演奏をするための心構えや技術を修得できたか。 | 演奏練習 | | | | | | | | | | | | 8 |
| | 10 | お互いの良い点を発見できたか。 | 演奏練習 | | | | | | | | | | | | 8 |
| | 11 | 息を合わせて演奏することでチームワークの大切さを知ることができたか。 | 演奏練習 | | | | | | | | | | | | 8 |
| | 12 | お互いの良いところを指摘しあうことができたか。 | 発表練習 | | | | | | | | | | | | 5 |
| 3 | 1 | 人前に立つ緊張感を味わうことができたか。 | 発表練習 | | | | | | | | | | | | 8 |
| | 2 | 今までに習得した演奏技術を使って、発表作品を仕上げることができたか。 | 発表練習 | | | | | | | | | | | | 8 |
| | 3 | 他者の発表を真摯な態度で聴きくことで、お互いのことを尊重しあえたか。 | 発表と鑑賞 | | | | | | | | | | | | 5 |

高等学校 令和6年度（3学年用）

教科

教養

科目

ベーシックプラスⅡ

教科： 教養 科目： ベーシックプラスⅡ 単位数： 2 単位
 対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 7 組
 教科担当者： 丸山
 使用教科書： ()
 使用教材： (Classi「webドリル」)

科目の目標
 【知識及び技能】 ベーシックⅠで学習した内容に加えて、社会生活で必要となる基礎・基本的な知識・技能を身につける。
 【思考力、判断力、表現力等】 自分に必要な勉強分野を理解し、繰り返し取り組むことで自己分析を常に行う。
 【学びに向かう力、人間性等】 自らのつまずきを自らの力で克服する態度を育み、わかることの喜びや努力することの価値を見いだす。

評価規準：

| 【知識・技能】 | 【思考・判断・表現】 | 【主体的に学習に取り組む態度】 |
|--|---|---|
| ①ベーシックⅠで学習した内容の補足事項を含めた学び直しの基本的な学習内容を理解している。 ②学び直しのねらいを理解し、粘り強く学習することで学習項目を完全に理解することができる。 | ①国語・数学・英語について、学習内容の理解定着をねらいとした復習を重ねることができる。 ②学習内容に積極的に取り組み、自らの学力を向上させる努力を継続することができる。 | ①国語・数学・英語の学習で得た知識等を活用し、事象の考察や問題の解決に活用しようとしている。 ②継続学習において、粘り強く考え、その過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとしている。 |

評価方法と割合：

| 【知識・技能】 全体の3分の1 | 【思考・判断・表現】 全体の3分の1 | 【主体的に学習に取り組む態度】 全体の3分の1 |
|------------------------|--------------------|-------------------------|
| ①最終復習時点数 ②プリントの取り組み | ①解答日時 ②復習回数 | ①学習に取り組む状況・ふりかえりの状況 |

| 学期 | 月 | 具体的な指導目標 | アキルスタンダード (指導項目・内容) | 知 | 思 | 態 | 評価の方法 | 実績(実施日) | | | | | | 配 当 時 間 | 評 価 |
|----|----|---|--|---|---|---|-------------------------|---------|---|---|---|---|---|------------------|--------|
| | | | | | | | | 種 | 種 | 種 | 種 | 種 | 種 | | |
| 1 | 4 | 国 現代語訳 内容説明(古典) 数 正負の数 正負の数の計算 英 文型の基本 (S+V)の文 | ①月初めに月ごとの学習計画を立てる (国語・数学・英語) ②Classi「マナドリ」教材に取り組む ・100点をとれるまで、もしくは1.0点以下の問題に取り組む ③授業の最後に振り返りを行い、次時 以降の学習の調整をする。 | ○ | ○ | ○ | 解答日時 復習回数 最終復習時点数 | | | | | | | | |
| | 5 | 国 理由・心情説明 和歌の理解 数 累乗 加法と減法 英 There構文 S+V+O | | ○ | ○ | ○ | 解答日時 復習回数 最終復習時点数 | | | | | | | | |
| | 6 | 国 古文、語句の学習 「動作・状態」を読み取る 数 乗法と除法 英 補語と目的語の違い 動詞の活用 | | ○ | ○ | ○ | 解答日時 復習回数 最終復習時点数 | | | | | | | | |
| | 7 | 国 主語・目的語の確認 主語部分を探す 数 文字を使った式 文字式の計算 英 時制(現在・過去・未来) (S+V+O)の文 | | ○ | ○ | ○ | 解答日時 復習回数 最終復習時点数 | | | | | | | | |
| 2 | 9 | 国 和歌の心情読解 数 式の値 英 1次方程式の解 第2文型をとる動詞 いろいろな文型 | ①月初めに月ごとの学習計画を立てる (国語・数学・英語) ②Classi「マナドリ」教材に取り組む ・100点をとれるまで、もしくは1.0点以下の問題に取り組む ③授業の最後に振り返りを行い、次時 以降の学習の調整をする。 | ○ | ○ | ○ | 解答日時 復習回数 最終復習時点数 | | | | | | | | |
| | 10 | 国 例置 四段活用動詞 数 方程式とその解き方 比例反比例 文の種類 補語と目的語の違い | | ○ | ○ | ○ | 解答日時 復習回数 最終復習時点数 | | | | | | | | |
| | 11 | 国 変格活用動詞 識別・敬語 数 関数 垂直二等分線の性質 まさらわしい自・他動詞 第4文型→第3文型 | | ○ | ○ | ○ | 解答日時 復習回数 最終復習時点数 | | | | | | | | |
| | 12 | 国 動詞活用 助動詞意味と接続 数 図形の移動 平面図形 toとforの使い分け 第4文型と第5文型 | | ○ | ○ | ○ | 解答日時 復習回数 最終復習時点数 | | | | | | | | |
| 3 | 1 | 国 形容動詞の基本 同音語識別 数 円柱の体積 球の体積 英 S+V+O+C 因果関係を表す第5文型 | ①月初めに月ごとの学習計画を立てる (国語・数学・英語) ②Classi「マナドリ」教材に取り組む ・100点をとれるまで、もしくは1.0点以下の問題に取り組む ③授業の最後に振り返りを行い、次時 以降の学習の調整をする。 | ○ | ○ | ○ | 解答日時 復習回数 最終復習時点数 | | | | | | | | |
| | 2 | 国 使役・尊敬の助動詞 受身可能自発尊敬の助動詞 数 平均値・中央値・最頻値 ヒストグラムの読み取り 可算名詞と不可算名詞 数量形容詞の使い分け | | ○ | ○ | ○ | 解答日時 復習回数 最終復習時点数 | | | | | | | | |
| | 3 | 国 打語種量の助動詞 連語の助動詞 数 資料の散らばりと代表値 データの活用 英 名詞の複数形 指示・人称・不定代名詞 | | ○ | ○ | ○ | 解答日時 復習回数 最終復習時点数 | | | | | | | | |

